

話すこと 指導のポイント

(その3)

～ We're Talking を通して ～

Q 各 Lesson の最後にある We're Talking はどのように指導すればいいですか？



We're Talking は、文字通り「話すこと」を意識したパートです。

We're Talking の特徴から、どのように指導すればよいか見てみましょう。

まずは、We're Talking の特徴を見えます。

We're Talking の特徴

- ・ 言語の使用場面や働きをより意識している。
- ・ 会話文が比較的易しく、分かりやすい。
- ・ 既習事項の文法事項や表現等が適切に含まれている。
- ・ 身近な場面や状況設定が多く、親しみやすい。 など

各 Lesson 末に位置付けられています。

その特徴を生かせば、次の点を意識して指導するのがよいと考えられます。

1 言語の使用場面や働きを意識させた上で定着させる。

2 既習事項と関連付ける。

例) 依頼する表現 Would you…? を学習する際

既習の依頼する表現 Can you…? Will you…? についても確認する。

3 実生活にかかわる表現が多いので、活用を意識して暗記させる。

4 活用を意識した「話す活動」を設定する。

※ 本時のみでなく、毎時のウォーミングアップ等で、計画的に活用することも考えられる。

基本的には1時間扱いとして、次の例のような流れで指導するとよいでしょう。

例)

※ あいさつ、帯活動などを除く

学習内容	留意点等
① オーラルイントロダクション (英語で)	映像や ALT 等を活用し、本文の内容を生徒に提示する。特に <u>場面を意識させる</u> ようにする。内容について簡単な Q&A で確認する。内容は、おおまかにつかませればよい。
② Talking Point の確認 (説明と練習)	A Talking Point について理解させ (特に使用場面や働き)、繰り返し練習させる。 <u>暗記</u> につなげたいところです。新出語句についても確認し練習させる。
③ 本文の確認 (内容の再確認と音読)	B TF クイズや Q&A 等で内容について再確認した後に、音読させる。Read & Look up 等も行いながら、話すことにつながるような音読を意識したい。これも <u>暗記</u> につなげたい。
④ Exercise	教科書の Exercise にペアで取り組ませる。(Talking Point に関連した短い対話) 練習意欲を高めるために、Exercise に関わる写真やカードを準備するのもよいでしょう。
⑤ Skit や Try	C ペアでスキットを演じさせたり、生徒の実態に応じ、Try のタスクに挑戦させたりする。 スキットを作成する場合、教科書の本文を基本に、対話を膨らませることも考えられる。
⑥ まとめ	Skit や Try のタスクに取り組ませる中で、気付いたことを確認するなどしながら、表現について、使用場面や働き、文構造などについて確認する。

これは、あくまでも一例です。生徒の実態や、言語材料の内容、言語活動内容等に応じて、2 時間で扱うことも考えられます。

A

依頼する際の表現 **Would you?** を学習する際に、既習の **Can you…? Will you…?** についても合わせて確認したいです。

B

GET 等の英文に比べ易しい文が多いので、活用することを意識し暗記させましょう。Slow learner には暗記する範囲を減らすなどの配慮もあるとよいでしょう。

C

書くことが目的ではないので、「話すこと」を意識させるようにしましょう。最終的には、即興で行うことを念頭に置きたいところです。